慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ドイツ語教育における教材制作:理念・開発・実践 : 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの場合
Sub Title	Herstellung von Lehrmaterialien für den DaF-Unterricht: Leitgedanken, Entwicklung und Anwendung : das Beispiel des Shonan-Fujisawa-Campus der Keio-Universität
Author	木村, 護郎 クリストフ(Kimura, Goro Christoph) 藁谷, 郁美(Waragai, Ikumi) 平高, 史也(Hirataka, Fumiya)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2003
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. ドイツ語学・文学 No.35 (2003. 2) ,p.49- 98
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032372-20030210-0049

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ドイツ語教育における教材制作：理念・開発・実践

― 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの場合 ―

木村 護郎 クリストフ・藁谷 郁美・平高 史也

1．はじめに

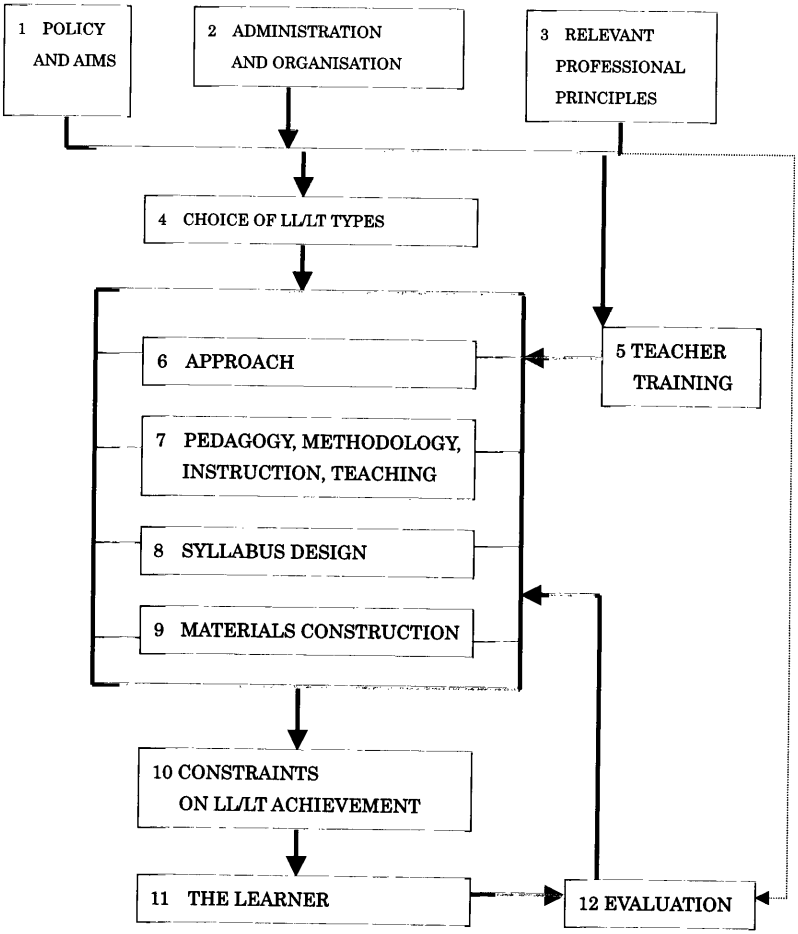
教材を手にしたとき，私たちはそれを授業でどう使うかについては考えるものの，それができあがるまでのプロセスに思いをめぐらせることはあまりない。教材の趣旨が序文や教師用マニュアルに申し訳程度に記されていることはあっても，企画立案の段階から使用に至るまでの過程でどのような議論がなされ，教材化されてきたかというプロセスはまだあまり注目されていないのではないだろうか。しかし，そうした舞台裏の事情は，教材を選び，使おうとする人にとってはもちろん，これから教材を作成しようとしている人にとっても貴重な情報である。さらに，教材開発をめぐる議論は外国語教育学の構築にも深く関わる。本稿は，慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（以下SFCとする）で現在開発中のドイツ語教材を題材として，教材制作の過程，いわばメーキングの現場を明らかにし，そこに含まれる種々の問題点について考察することを目的とする。本稿での議論は単なる教材開発の事例紹介にとどまらず，ドイツ語あるいは外国語教育学のあり方を模索するものでもある。

2．外国語学習・教育のプロセス：教材論の枠組みとして

使用だけではなく，開発も対象として教材を論じる場合は，外国語学習・教育のプロセス全体の中に教材開発を位置づけるというスタンスが求

められる。外国語学習・教育のプロセスを包括的に把握するには，Stern (1983)，Edmondson/House (1993) なども参考になるが，ここでは以下の議論の出発点としてStrevens (1977) のlanguage learning / language teaching processのモデル（図１）をとりあげる。このモデルが有用なのは次の３つの理由による。

図１　A model of the LL/LT Process (Strevens (1977))



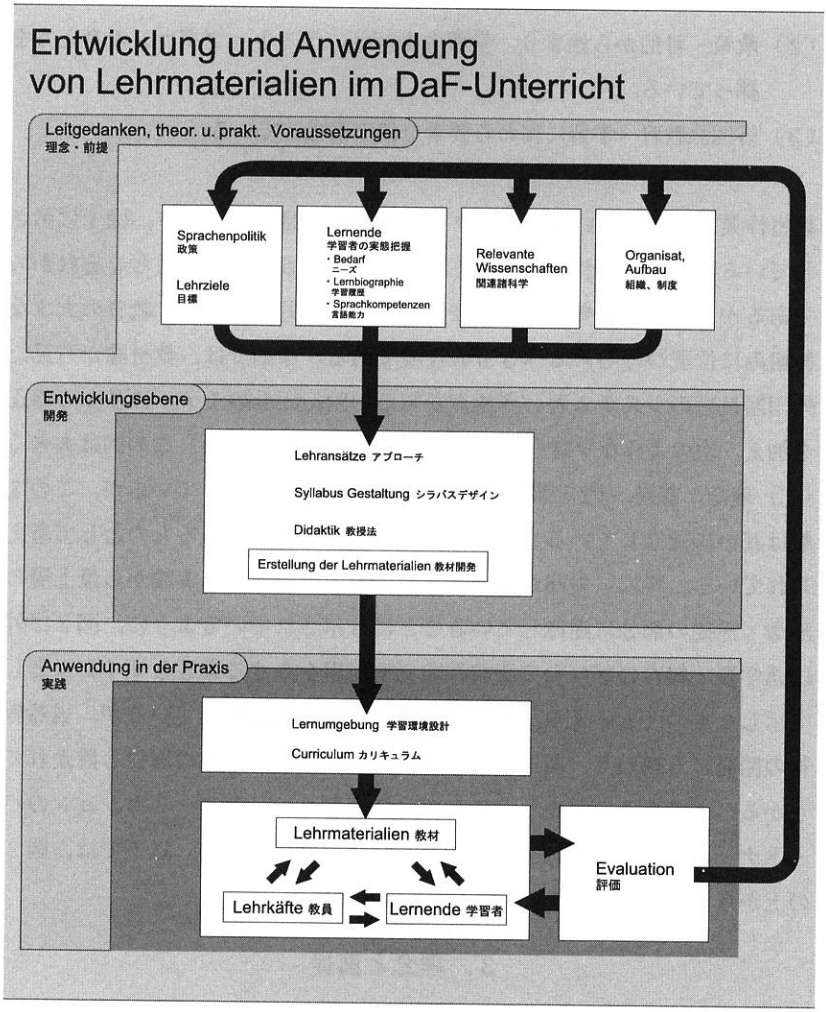
（1）国や地域だけではなく，大学や高等学校などの教育機関での外国語教育にもあてはめることができる。
（2）政策・目的から始まり，学習者や評価に至るトップダウンの考え方を採っている。
（3）外国語教育・学習に関わる要素をほぼ網羅している。

教室作業では教材というプロダクトばかりに注目するあまり，図1に示されているように，それを取り巻く重要な要素が数多くあることを忘れがちであるが，教材開発や現場での授業もこうした外国語学習・教育の大きな枠組みに位置づけられるべきものなのである。本稿では，教材論から見た外国語教育のシステムという視点からこのStrevensのモデルに多少の修正を加え，次のようなフロー・チャートを提案する（図2）。この図は大きく（1）理念・前提，（2）開発，（3）実践の3層からなっているが，この3層は互いに独立しているものではなく，相互に関連のあるものとして考えられている。特に，矢印が図の最下層にある評価を含む実践から最上層の理念・前提の部分に逆流していることにも示されているように，図2は外国語学習・教育のプロセスを教材開発や使用をめぐる大きなサイクルとして示したものともいえる。教員は実践のレベルに配されているが，当然教材の開発にも携わり，関連諸科学の研究も行うので，他の層にも置かれてしかるべきである。しかし，ここでは学習者とのインターアクションのパートナーとしての一面に主眼を置き，実践の層に配した。以下では，図2の上から下へという流れにしたがって論を進める。

3．理念と前提

はじめに，教材開発・使用の前提であり，理念ともなる4つの要素について考察する。

図２　教材論から見た外国語教育のシステム：ドイツ語教材の開発と使用



３．１．政策と目的

国や地域だけではなく，大学の外国語教育にも言語政策的な視点が必要であることはすでに指摘されている[1]。これは言いかえれば理念ということ

もできよう。中等教育段階で英語以外の言語の教育がほとんど行われていない我が国では，大学の言語教育をどのような政策と目的をもって進めていくかは重要な課題である。SFCの外国語教育の政策や理念についてはすでに論じられているので，詳細はそちらに譲り[2]，ここでは多言語主義と発信のための外国語運用能力習得という2つのキーワードを挙げるにとどめておく。

SFCのドイツ語教育もこの理念を共有している。発信のための外国語運用能力とは，自らについて語ることのできる能力をいう。これまでの外国語教育が力点を置いていた外国語を使って海外の情報を得るという面だけではなく，自身の持っている情報やコンテンツ，意思を聞き手に的確に伝える能力に重点を置いている。したがって，外国語の運用能力のみならず，それに内容を盛り込んで発信し，受信できるコミュニケーション能力の総体の育成を目的としている。ツールとしての外国語能力を磨くことは大切だが，コンテンツなくしてはツールとしての外国語は存在しえない。このように現実に即した発信のための言語能力の習得を目標として立てるのなら，アプローチや教材，教授法も当然その目標に見合ったものでなければならない。例えば，いわゆる文法読本的な教科書を使ってテキストを逐語的に訳していくような授業では，この目標は達成できないのである。

また，学生に2つ以上の外国語を学ばせようという政策や理念を打ち立てるのならば，それに見合った柔軟な制度が求められよう。SFCではここ数年この点に変化が見られ，インテンシブコースを3期まで必修として課していたキャンパス設立当初の制度から，学びたい学生は自分のレベルや関心に合ったコースを自由に選択して履修できる方向に変わってきている。

1）例えば，井上（1995），平高（1997）を参照。
2）例えば，関口（1993）を参照。

3．2．学習者の実態の把握

政策・目的と表裏一体をなすのが，学習者の実態の把握である。政策・目的はいわば教える側，管理する側の視点であるが，教わる側に立って，学習者が何を学びたいと思っているのか，ドイツ語も含めた外国語の学習履歴はどのようになっているのか，また，海外滞在経験はあるのか，などの言語生活に関わる要素は，適切な外国語教育の政策や目的を打ち出すためには知っておくべき必須の項目といえよう。SFCでは学生に語種登録の際，選択理由や外国語学習歴などの情報を記入してもらっている。本来はさらに学習者のタイプや各自が好む学習スタイルなどについてのデータも望まれるところである。こうしたニーズやすでに有している言語能力の分析は，到達目標を設定し，シラバスを策定するのに役立つばかりでなく，教材開発にも大きな影響を与える。学習者の大半が発話のためのドイツ語能力を身につけたいと思っているのに，読解や翻訳に重点のある教材を開発したり，使ったりしても意味はない。少なくとも，学習者のニーズに応えることはできない。また，例えば大学卒業時におけるドイツ語能力の到達目標を設定するためには，実社会で求められているドイツ語能力や日本語母語話者のドイツ語によるコミュニケーションの実態等々についての調査も必要であろう。そうした実態が明らかになって初めて，外国語学習・教育の目的も明確になる。日本語を母語とする話者の外国語能力（とりわけ英語以外のそれ）の実態調査はその意味でも急務であろう。

3．3．組織と制度

3．2．でも少し触れたように，どのような言語能力を備えた学生を世に送り出したいか，そのためにはどのような言語をどの程度学ばせるべきかというのは大学の言語（教育）政策に関わる問題である。そして，それを実現すべく考えられるのが制度や組織である。例えば，外国語を何単位課すのか，必修とするのか，自由科目とするのか，等々についての決定が

これにあたる。事務部門の学事や教務担当などの授業としての外国語教育に関わる組織もこれに該当しよう。

さらに，大学内の組織としてのセンターや研究室の態勢も教材の開発や使用を左右する大きなファクターである。SFCではドイツ語研究室だけではなく，どの外国語研究室にもTA（Teaching Assistant，大学院生），SA（Student Assistant，学部生）が置かれており，教員とともに研究・教育・管理の諸活動に参加している。この教員と学生が一つになって研究，教育，管理に関わる態勢こそが，他では例を見ないSFCドイツ語研究室の特徴となっている。

教員は専任，非常勤を問わず，インテンシブコース，ベーシックコースでは同じ教材を使用して教育にあたっている。それには，根底にある政策や理念，また，後で述べるアプローチや教授法について担当教員全員に共通の理解が必要である。教員の個性の違いは生かされなくてはならないが，教育に関する根本的な部分，すなわち，理念は共有するべきであろう。

3．4．関連諸科学

言語教育は，言語の科学，心の科学，教える科学の3つの柱が支えるものという考え方が長く支配的であったが，近年はそれに個人を取り巻く社会の科学と文化の科学が加わったと見ることができる。外国語教育の根底をなす研究領域としてStern (1983) は言語教育史，言語学，社会学（および社会言語学，文化人類学），心理学（および心理言語学），教育理論の5つを挙げている。また，日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議による『日本語教育のための教員養成について』は，「日本語教員養成において必要とされる教育内容」の「コミュニケーション」を「社会・文化・地域に関わる領域」，「教育に関わる領域」，「言語に関わる領域」の3つに分け，さらに区分として「社会・文化・地域」，「言語と社会」，「言語と心理」，「言語と教育」，「言語」の5つに分けている。この5つの区分はStern (1983) とほぼ重なるものといえよう。さらに，Henrici (1995) は„DaF im Kontext

anderer Wissenschaften“として次の3つのReferenzwissenschaftenを挙げている[3]。

Referenzwissenschaften 1

- Zweitsprachenerwerbsforschung
- L2–Classroom Research
- angewandte Linguistik

Referenzwissenschaften 2

- Linguistik (kontrastive Linguistik, Pragmatik, Psycholinguistik u.a.)
- Literaturwissenschaft
- Germanistik/Auslandsgermanistik
- Kultur– und Landeswissenschaft

Referenzwissenschaften 3

- Soziologie
- Psychologie
- Pädagogik (Didaktik...)
- Medienwissenschaft

これら3つの先行研究から言語学，心理学，教育学，社会学，文化学などの諸科学が重要な関連領域として浮かび上がってくる。さらに，Henrici (1995) には挙げられているが，近年日常生活の領域にも入り込んでいるネットワーク環境やIT関連の科学も加えておくべきであろう。

SFCドイツ語研究室では，これまでにも眼球運動の研究成果を取り入れたドイツ語教材[4]や，ITを学習環境に組み込んだドイツ語発音導入ソフトの開発[5]などに力を入れている。また，ドイツ語圏での夏季研修に参加した学生の渡独前後のインタビューを分析するプロジェクト[6]も行われてお

3）Henrici (1995:18)

4）関口一郎・斎藤貴臣 (1993) 参照。

5）藁谷郁美・平高史也・関口一郎ほか (2001) 参照。

り，その成果は教材にも反映されている[7]。

4．開発（教材・教授法開発）

4．1．アプローチ　―　問題発見・解決型と発信型　―

教材・教授法開発のプロセスにかかわる理念を具体化するものとして，ＳＦＣドイツ語研究室では，問題発見・解決型アプローチと発信型アプローチの２つを重視している。外国語教育では往々にして文法規則や語彙をそのまま暗記，蓄積することが後の学習段階へ進む前提となりやすい。その場合，思考過程を経ずにただ暗記されただけの事項は応用力を伴わず，コミュニケーションの場に柔軟に適応する能力が身につきにくい。ＳＦＣのドイツ語教育では，学習者が受け手としてドイツ語を習得していくのではなく，自ら問題を発見し，解決する，問題発見→解決のプロセスを基本とする。後に述べる初級１および初級２のシラバスデザインの中で大きな柱となる文法も，文法事項を最初から規則として与えるのではなく，まずさまざまな場面設定とそれに適した例文から学習者に文法規則を発見させることを出発点としている。文法規則だけではなく，語彙や表現法等も問題発見の対象として扱う。解決へのプロセスは，文字のほかに写真やイラスト等の視覚情報，学習者の身の回りに存在する情報や既習事項によって導かれる。本来，知識というのは，「単に事実を並べたものではなく，むしろ，問題を解くことを通して自分のさまざまな経験やほかの知識と組み合わせることができるようになった，問題解決のための信頼できるよりどころ」[8]である。この問題発見・解決プロセスを経た知識こそが，使える文法知識，使える語彙知識となって学習者の中に蓄積されていくべきものであ

6）平高史也・藁谷郁美（2001）参照。

7）例えば，初級３第２課での聞き返しや言いよどみの表現の扱いなどには，このプロジェクトの研究成果が現れている。

8）安西（1985: 201－202）

るならば，外国語学習でも学習者それぞれが自分のコンテンツである経験や知識を生かすことこそが，きわめて効率的な学習法となるはずである。だから，問題発見・解決型アプローチは，同時に学習者が自分について話す，あるいは自分の考えを話すといった自己発信型学習を促すことになる。教師が質問して学生が答えるという一方向の学習ではなく，学生が問題を発見してそれを問いとして教師やクラスメートに対してまず発信することが重要である。受信の後に発信するのではなく，発信してから受信するというプロセスがあって初めて，学習者に自ら思考するという段階を踏ませることができ，コミュニケーション能力の基本である読む，書く，聞く，話すという４技能を応用力を伴った形で身につけさせることができる。

４．２．シラバスデザイン

３．で述べたことからもわかるように，外国語学習・教育では従来のような文法事項の積み上げばかりではなく，まず到達目標を設定したうえで，そこから「どんな能力が必要なのか」を分析してシラバスを立てるという考え方も大切である。その能力は文法に関するものだけではなく，機能や語彙についてのそれも欠かすことができない。ＳＦＣのドイツ語教育ではこれらに加えて，学習者にとって重要な接触場面[9]もシラバスを構成する軸の一つとして考慮した。その結果，シラバスは文法のみ，あるいは機能のみといった１本の柱ではなく，文法・機能・語彙・場面・トピックを総合的に組み込んだ複数の柱を土台にしたものとなっている。

４．２．１．到達目標の設定とシラバスデザイン

初級１，２をもって，いわゆる初級文法は一通り終了する。初級２終了段階では，ＳＦＣの外国語教育の理念を念頭におき，ドイツ語を使って何（コンテンツ）が発信できるかに重点を置いている。ここでは自分の関心や

9）接触場面についてはネウストプニー（1995）を参照。

専門，生活環境を語り，自分の考えを発信できる能力を身につけることを到達目標としている。自分について語ることができるためには，場面やトピックは既知のものであったほうがよい。だから，この教材を使ってドイツ語を学ぶ学習者（日本の大学で初修言語としてドイツ語を学ぶ日本語母語話者）が実際に日常生活で遭遇するであろう場面を設定し，その場面における言語行動やトピックを素材とする。初修言語を学び始めて間もない学習者の言語行動を架空のドイツ語圏に設定するのは，私たちの理念にはそぐわない。例えば，道案内のシーンを考えてみよう。習いはじめて数週間の，まだドイツに行ったこともない学生に「あなたは今ミュンヘンのマリア広場にいます。オペラハウスへ行く道を説明してみましょう」というような課題を与えると，行ったこともないドイツの都市の建物や道路を想像で補いつつ，説明することになる。道案内に必要な言語表現の習得に集中させるのなら，学生の注意をそれ以外の要素に向けるのはあまり好ましいことではない。一方，最寄駅から自分の大学までの道筋は毎日通っている道なので，学生が知っているということを前提とすることができる。コンテンツは既知なのだから，その分のエネルギーを言語形式の獲得に注ぐことができる。

初級３では，初級１，２までで身につけたドイツ語のスキルを使って，ドイツ語圏でどうやって生活するのか，という段階へ移る。ねらいは初級３終了後に参加する海外研修へのステップアップである。したがってこの段階での場面設定はドイツ語圏へと移行する。ただし，ここで重要なのは，あくまでも学習者がドイツ語圏へ初めて渡ったときに遭遇するであろう場面，行動，トピックが中心になって教材が作成されるという点である。初級３の学習者像は，初級１，２の学習プロセスを経て，ドイツ語圏の大学へ初めて赴くという状況を想定している。初級１，２に較べてシラバスに占める文法項目の割合は低くなり，逆に機能，言語行動，語彙，トピックがより大きなウェイトを占める。初級３は海外研修へのステップ，およびその後学習者が進む専門分野との関連で用意されている中上級レベルのド

イツ語科目（スキルモジュラー科目とコンテンツモジュラー科目）への橋渡しとしての役割も同時に担っている。

このように，シラバスをデザインするためには，初級１，２，３の各段階でそれぞれ異なる目標を掲げ，何に重点を置くのかを明らかにする必要がある。ＳＦＣのドイツ語教育では，上述のような学習者のニーズに合わせて（１）文型・文法，（２）表現・機能，（３）トピック・場面の３つの観点からシラバスを設計している。その際，Council of Europe（2001）に見られるシラバスの考え方，特に公的・私的場面状況からなるドメインという概念が参考になった[10]。

４．２．２．初級1，２のシラバス

すでに述べた通り，初級１および初級２は学習者の日常生活が場面状況として設定されているので，ここでは公的場面状況として大学（ＳＦＣ）を，私的場面状況として自宅等，大学以外の場を想定している。初級１の教員用シラバスを図３に示す。初級文法が一通り終了する初級２までの段階では，シラバスは文法中心にデザインされてはいるが，同時に，テーマ・トピック・機能（Inhalte, Funktionen）が文法事項の学習進行に合わせて組み込まれている。その際，話す力，聞く力，読む力，書く力を養成するための教材がさまざまな形で学習者に提供されるが，この段階で重点が置かれるのは自己発信のためのコミュニケーション能力である。場面設定が大学生活を中心とした，学生にとって至極自然な接触場面であることから，学習者は既知のコンテンツを材料にコミュニケーション能力を伸ばすことに集中できる。ここでは学習者自身が実際に体験している内容だけをコンテンツとして扱うばかりでなく，特に初級２後半では，そうした体験を踏まえて自分の意見を述べたり，他の学習者とのディスカッションをすることで，発信と受信を繰り返すコミュニケーション能力の養成が可能に

10）Council of Europe（2001：48－49）

なっている。

図３　初級１の教授用シラバス

Lektion	Grammatik	Inhalte,Funktionen	Wortfelder	Anmerkungen & Ideen
1	W-Fragen, Ja/Nein-Fragen Aussagesatz, 1., 2. Person, du, Sie „sein", „nicht"	Begrüßung/Abschied Selbstvorstellung	Sport („spielen", „machen"), Musik („spielen", „hören"), Studium, Herkunft, Wohnort „gern", „gut"	Selbstv. Monolog, Dialog „Fernsehinterview", Fragen aus dem Off Vorstellung der Hauptdarsteller Fragen variieren
2	3. Person V mit Vokalwechsel: essen, lesen, sprechen „doch" Frage als Aufforderung „Gehen wir essen?" Strukturtabelle zu „gut", „gern", „oft"	Hobbys, Essen, Trinken	Speisen, Getränke Sport, Hobbys	Gegenseitiges Fragen nach Interessen, um gemeinsame Unternehmungen zu finden. „Trialog": A erzählt B über C, C widerspricht A und B treffen C, A erzählt über den Freund B
3	best. Artikel Akkusativ „davor", „dahinter" etc.	Wegauskunft am Campus, am Bhf	Gebäude 1, Geschäfte	Landkarte am Bhf Shonandai SFC-Führung
4	Akkusativ unbest. Artikel „kein", „haben", „oder" Imperativ in Sie-Form Personalpronom.(3. Pers.)	Identifizierung des Gegenstands	(Schreibwaren) „Was ich in der Tasche habe" Möbel, Elektrogeräte	Wohngemeinschaft
5	Possessivpronomen in Nom und Akk Personalpron. (Sachen), „finden", „denn" Komparativ v. „gut" Adjektive	Beurteilen	Kleidung Adjektive „zu", „ein bisschen", „ganz" Farben	Computer, Kleidung 総合練習１～４
6	V mit Vokalwechsel „fahren", „tragen", Akk v. Personalpron. („mich", „uns"), Dat v. Personalpron. (mit den Verben: „gefallen", „gehören"), Plural v. Nomen Adjektive	„Familienfoto" Personen vorstellen	Familienmitglieder Berufe (Auswahl) Alter	Filmidee „wachsende Familie" Vorlage: Zeichnung Übung zu „gefallen" Zur Benutzung des Wörterbuchs
7	„möchte", „es gibt", Demonstrativpronomen wie viele, wie lange nehmen	Einkaufen Im Aufzug	Schreibwaren	Im Schreibwarengeschäft Lesetext Zeiteinheiten Preis Komposita
8	Präpositionen der Richtung (zum, zur, nach) als Floskel trennbare Verben (inkl. „vorhaben") dieser/welcher	Wegauskunft (Bus, Bahn)	Verkehrsmittel	Bushaltestelle, Bahnhof (wie bisher)
9	Verben mit Dat und Akk Präpositionen mit Dat (mit ,zu, nach, von, bei), Präpositionen mit Akk (für, ohne, über, durch)	Besichtigung	Gebäude 2	Kamakura
10	Imperativ in Du-Form Wechselpräpositionen stehen/stellen legen/liegen „zum", „ins" etc. erklären „werden" als Vollverb (werden + Adj.)	Instruktion	Technische Geräte, Elektrogeräte, Computerteile (r Bildschirm, s Keyboard, e Maus, r Computer, r Laptop)	Aufräumen im Büro (wie bisher)
11	Modalverben, werden + Hilfswerb Uhrzeit 1 (digital)	Zukunftsplan um Hilfe bitten, Hilfe anbieten Instruktion als Bitte	Berufe Z.B.: „Ich will Journalist werden"	Zukunftspläne („nach der Uni" = „nach dem Unterricht" =/= „nach dem Studium"
12	Perfekt Präteritum v. sein, haben, Uhrzeit 2 (analog)	Erzählung persönlicher Erfahrung	Studentenleben, Freizeit	Im Studentenclub: Spiel, Veranstaltung, Fete

４．２．３．初級３のシラバス

初級１から初級２までを１年間学習したうえで，次の段階，初級３へと

進む。初級３の学習者用シラバス（図４）に明らかなように，ここでそれまでの文法を中心としたシラバスから，機能やトピック（図４ではVideo）を中心としたシラバスへと移行する。学習者はすでに一通りの初級文法を終えているから，初級３での文法事項は，新出の文法事項の導入よりもむしろ既習の文法事項の応用に力点が置かれる。シラバスデザインの柱である場面設定とトピックは，ここで初めて日本からドイツ語圏へと移される。しかし，学習者のおかれた環境から逸脱した場面ではなく，一貫して現実的な状況が接触場面として設定されている。

具体的には，日本でのドイツ語学習を一通り終えた学生が，春休みや夏休みを利用してドイツ語圏の語学研修に参加するという状況が想定されている。自分で研修の申し込みを済ませ，ドイツの大学に行き，学生寮に入り，ドイツ語圏での学生生活をスタートするところから，いろいろな体験を経て帰国するまでに遭遇するであろうさまざまな接触場面が選択されている。このような場面設定の中で，既習の文法事項がドイツ語圏でのコミュニケーションでどのように応用できるのかを学習するのが初級３のねらいでもある。教材の内容は，初級１，２のように話す，聞く能力の養成をめざすだけではなく，読む，書く能力を培うための要素を増やしたものになっている。

ここで特に重要な作業は，このドイツ語圏での接触場面の設定である。ＳＦＣでは春休みおよび夏休み期間中に行われる海外語学研修は単位認定の対象とされる。したがって初級３を終えて（場合によっては初級２終了の段階で）語学研修への参加を希望する学生は少なくない。[11] ＳＦＣで初級３まで終えた学生がドイツ語圏においてどのような接触場面に遭遇するのか，その現状をより詳しく把握するために，研修参加希望の学生に対して研修申し込みの段階から帰国するまでの期間，日誌を書くことを義務づけている。また，研修参加学生は，異文化，異言語と接触してどのようなこ

11）毎年春・夏あわせて平均20名前後の学生が語学研修に参加している。

とがらに気づき，興味を抱くのか，あるいは失望したり，ショックを受けたりするのか ― 学生の視点から体験するこれらのさまざまな場面をデータとして蓄積し，教材における接触場面の設定に反映させている。

図4　初級3学習者用シラバス

Lektion	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
1	助動詞の応用	- 助言を求める - 助言する - 勧める - 情報を集める	ドイツ旅行の準備	- 旅（荷物、ビザなど） - 四季 - 衣服
	Übungen	Landeskunde	備考	
	日本やドイツへの旅行に持っていくもの	読む練習: 日本やドイツへの旅行に際してのアドバイス		
2	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
	- 空間の表現 - 指示代名詞	理解の確保 (聞き返す、理解できなかったということを伝える etc.)	- 道を聞く - 大学の外国人局で海外研修の登録	- 空間の表現 - 海外研修
	Übungen	Landeskunde	備考	
	- 指示代名詞 - "Gehen Sie die Treppe hoch" - ボン大学の申請書	- 聞きとり:ミュンヘンの夏季研修 - 読む練習:ドイツの夏季研修 - 海外研修に関する質問やお勧め		
3	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
	- 場所を表す前置詞(3格) - "für" - 複合名詞 - 分綴	- 「ある」という意味を表すいろいろな表現	学生寮で	- 住居 - 家具，家事に使うもの
	Übungen	Landeskunde	備考	
	- 前置詞 - 動詞（家の関係） - 複合名詞	- WG-Fragen - 聞きとり:ラジオ・インタビュー「シェア・アパート」 - „Wie sieht dein Zimmer aus?"		

4	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
	接続法 II 式 (würden + Inf., hätte lieber, mir wäre es lieber …)	- 提案する - 提案を受け入れる、拒否する （決定する、任せる、引き受ける、分担する、希望を述べる）	パーティーの準備	食材、量、単位
	Übungen	Landeskunde	備考	
	- „Sagen Sie es höflich!“ -„Feten, Feten, Feten“ (パーティーの準備、量)	読む練習: „Frau Gertie“ (助言を求める、与える)		
5	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
	- 状態受動 - “was” - “während“	個人の印象や好みを表現する、理由づける	“Mein Berlin” (インフォーマルなスタイルでのベルリン紹介、写真を使ったモノローグ)	- 都市の描写 - ベルリンの中心街
	Übungen	Landeskunde	備考	
	- 語のつながり - 名所や芸術作品の描写	読む練習: 「首都移転」 - „Hauptstadt Berlin“ - „Hauptstadt Tokio“	自分が紹介したい町や名所、芸術作品の写真や絵葉書、“Tokyo Walker”や「ぴあ」などを使い、町やおすすめレストランの紹介、理由	
6	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
	- 接続語句 - „es“の使い方 - „brauchen nicht zu“	手紙の書き方	手紙を書く、直す（話しことばと書きことば、丁寧な招待）	郵便
	Übungen	Landeskunde	備考	
	- 接続語句 - 助動詞	読む練習 :Juns Brief an S. 書く練習 :S.s Brief an J.(丁寧な表現) 大学からの手紙		

7	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
	- 前置詞のまとめ(時間表現と空間表現)	レストランでの表現(入口で、テーブルで、注文、乾杯、支払い、チップ)	Biergarten で	- レストランで使う表現 - メニュー
	Übungen	Landeskunde	備考	
	- 前置詞(時間および空間の表現) - 読む練習: „Essen und Trinken in Deutschland“	- 聞きとり：Dialog Jun u. Sven im vornehmen Restaurant - 読む練習：„Juns Tagebuch“		
8	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
	- worden と geworden - 受動態の現在完了 - man の用法	- 体験をどう伝えるか(談話の構成)	リュックサックがなくなっちゃった	- 遺失物、盗難
	Übungen	Landeskunde	備考	
	- worden と geworden - man の用法 - Wer kann mir helfen? - Verlustmeldung	- Erzählung persönlicher Erfahrung (Aus Juns Tagebuch, Aus Jürgens Tagebuch, Du, hör mal!)		
9	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
	- 接続法 I 式 - 過去完了	- 直接話法 - 引用	- “Der sechsjährige Autofahrer“ (新聞記事)	sagen/sprechen /reden/erzählen …
	Übungen	Landeskunde	備考	
	- 接続法 I 式 - 読む練習: „Kollomann: Pressekonferenz in Tokio“	- 書く練習: „Kollomann“ インタビューを再現する - 読む練習: „Interview Kollomann“		

10	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
	- 動詞の名詞化 - 同等比較 - „wie“ + 複文 - 前つづり - Du の命令形	手順と使い方の説明(不定形や„man“を使って,„Sie“の場合の命令形)	„Verkehrsmittel in Deutschld.“	電車とバス
	Übungen	Landeskunde	備考	
	- 語彙練習（名詞と動詞） - 取扱い説明書(ビデオカメラ、電話、洗濯機) - レシピ	- 読む練習: „Verkehr in der Stadt“ (予測能力養成の穴うめ) - Q&A		
11	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
	- Modalpartikel	- 議論とディベート (賛否、例示、意見を言う・聞く)	„Schweigen ist Gold?“ (ディスカッション)	動詞と前置詞の組み合わせ
	Übungen	Landeskunde	備考	
	- 動詞と前置詞の組み合わせ - 拒否する、別の意見を言う - 支持する、賛成する、 - Modalpartikel	- 読む練習: „Eine Meinung“ (eines deutsch. Lehrers zum SFC) - 書く練習: „Meine Meing.“ (賛否/根拠づけ/補足と新提案)		
12	Grammatik	Funktionen	Video	Wortfelder
	- 接頭辞・接尾辞 - “werden”	- 確認する (“Echt?”) - 蓋然性の表現 - 確信の度合い	- “Tschüs, Deutschland!“	- 形容詞の接頭辞・接尾辞
	Übungen	Landeskunde	備考	
	- 形容詞と副詞の接頭辞・接尾辞 - 確認をとる、蓋然性、確信の度合いを表す - 形容詞 + dass	- 読む練習: „Svens Brief an Jun“ - 書く練習: „Juns Brief an Sven“		

4．3．教材・教授法

ドイツ語教材は初級1，2，3の各課ともに「問題発見コーナー」，「キーセンテンス」，「文法」，「スケッチ練習」，「スケッチ」，「パートナー練習」，「文法練習」，「応用練習」等の部分から成り立っている。実際の授業の流れについては次章を参照されたい。ここでは各パートの担う意味について述べる。

4．3．1．「問題発見コーナー」

このパートはＳＦＣドイツ語教材・教授法のアプローチを示す典型的な部分のひとつである。すでに言及したように，ここでは新しい文法事項や表現方法の規則を学生自身に発見させるのがねらいである。ヒントとなるのは絵や写真，文字，場合によっては学生が既に持っている，例えば英語の知識等であり，それらを使って新たな文法等の規則性を導き出させるのである。この段階では，まだ新出事項の文法説明を行っていないが，だからこそ学生は臆することなく，これまでの知識を駆使して問題を発見し，解決を図ろうとする。こうして「みんなで」導き出した文法の規則性が，後の「文法」コーナーで整理される。

4．3．2．「キーセンテンス」

教材・教授法の中で核を成すのが「問題発見コーナー」の前後に扱われる「キーセンテンス」である。どの課も，常にキーセンテンスのビデオで始められる。学生達はまず最初にキーセンテンスを聞き，音声に合わせた発音の反復練習を行う。この段階では文法説明を一切おこなわず，学習者がリラックスした状態で発音練習に集中することができるように工夫している。[12]「キーセンテンス」にはその課で学ぶ重要な10余りの文が収められてい

12）このサジェストペディアを応用した方法は関口（1993:62）で述べられている。

る。「キーセンテンス」には2つの意味がこめられている。1つは，後に勉強するスケッチビデオを理解するための「キー」となっていることである。スケッチはキーセンテンスを骨組みとして成り立っている。次に，どのキーセンテンスも基本的な文法事項を含んでおり，さまざまな場面やトピックに応用できるいわば雛型ともいうべき文となっている。

4．3．3．「文法」

先の問題発見コーナーの，いわば答えとなるのが「文法」である。ここで学生達は自分達のおこなった思考プロセスをあらためて確認する。ここでの文法説明でも例文はキーセンテンスやスケッチに出てくる文が示される。この段階ではじめて，学生は最初に発音練習を繰り返したキーセンテンスの文法構造と意味を把握するのである。

4．3．4．「スケッチ練習」と「スケッチ」

学習者は「スケッチ」を見る前に，まず「スケッチ練習」を行う。「スケッチ」の内容に関する問いが10問から15問ほど穴埋めや質問の形で載せられている。この練習を経ることによって，次のスケッチビデオをどう見たらよいかについての心構えができる。つまり，どの部分に注意して聞けばいいのか，ストーリーの中で問題になっているのは何か，これらをあらかじめ意識してスケッチを見ることによって，漫然とではなく，ポイントを押さえた見方，聞き方ができるようになる。スケッチビデオはその時の状況によって何度繰り返して見せても構わない。この段階で学生は既に習った「キーセンテンス」が，スケッチ内で繰り広げられるコンテクストの中で自然なコミュニケーションとして機能していることを確認する。

4．3．5．「パートナー練習」

スケッチの理解ができたら，「パートナー練習」でスケッチに類した状況を想定し，キーセンテンスを使った対話例をペアで作成する。これによっ

て学生はキーセンテンスを音とリズムで体験し，まずは基礎となる雛型を身につけることに集中する。

4．3．6．「文法練習」と「応用練習」

上述のパートナー練習までで週8時間の授業時間のうち半分を費やすことになるが，後半の4時間は，日本語母語教員による文法を中心とした基礎練習とドイツ語母語教員による応用練習に2時間ずつ充てられる。基礎練習では各課の新しい文法事項を確認するための練習を行う。ここでは穴埋め問題や書き換え等，単純な文法習得のための練習をすることで新出文法を定着させるのが目的である。教材作成の基本にあるのは「学生が先生といっしょになって，ドイツ語を使いながら授業時間を楽しくすごす」[13]ことである。具体的な教材例は5．2．で紹介するが，内容はペアワークやグループワークの形を多く取り入れたものとなっている。これらの練習によって，応用練習では実際の生活で自分の意志を伝達したり，他人との交渉をしなければならない場合のシミュレーションをすることが可能となる。ときには日本語母語教員の時間に宿題としてレポートを課し，ドイツ語母語教員の時間に学生は自分のレポートを添削してもらうという場合もある。

4．3．7．その他

4．3．7．1．教授用マニュアルとローテーション・システム

教材開発に含まれる重要な要素として，教授用マニュアルの作成がある。これは教材に含まれる練習問題の解答を記載したものではなく，それぞれの教材が何を意図して作成されているのか，その本質を教員全員が共有し，理解するためのものである。例として初級1第7課の教授用マニュアルを見てみよう（図5）。このマニュアルは，各教員が自分の担当部分を理解す

13）関口（1993:68）

図5　教授用マニュアル

LEKTION 7

Wochenplan

DIENSTAG Einführung

PLENUM

10-Minuten-Test
Mitteilungen
Einführung in die Lektion 7
Videofilme
Schlüsselsätze

KLASSENUNTERRICHT

Mondai-Hakken
Grammatik
Passiv

MITTWOCH SKETCH-Stunden

SKETCH – „Ein Bericht aus dem SFC"

SKETCH – Ein deutscher Reporter berichtet über den SFC.
Sketch-Übung
Partnerarbeit
Mini-Dialog

FREITAG Übungen 1

● Freie Aussage
Übungen für „einer(eines,eine) der ...". Die Studenten diskutieren frei über bekannte Personen oder Sachen.

● Spiel mit der japanischen Geschichte
Die Klasse wird in 2,3,4 Gruppen geteilt. Sie stellen sich gegenseitig Fragen. Man darf jedoch nur die Fragen stellen, die von einem seiner Gruppe richtig beantwortet werden können. Die Lehrer werden gebeten, die gewonnenen Punkte jeder Gruppe zu zählen.

● Wörter und Wendungen 1, 2 – „Meine Heimat"
Japanisch-deutsche Übersetzung. Antwortbeispiele stehen im nächsten Text (Mein liebes Land 1).

● Mein liebes Land 1
Das ist die Vorbereitung für die Gruppenarbeit am Montag.

MONTAG Übungen 2

● Mein liebes Land 2
Die deutschsprachigen Lehrer wollen irgendwohin in Japan reisen. Studenten versuchen ihnen Tips zu geben. Die Schlüsselsätze sollen verwendet werden.

● SFC-Führung
Eine deutsche Delegation ist nach Japan gekommen.
Studenten informieren sie zuerst über die Keio-Uni und über den SFC, dann führen sie sie auf dem Campus herum.
Nötige Daten stehen im Blatt 2.

Am Ende werden verschiedene Fragen über die Keio und den SFC gestellt.

● Die Heimat der Lehrer
Die Lehrer erzählen frei über ihre Heimat. Diesmal sollen Studenten Fragen stellen.
Es wäre schön, wenn es irgendwelche Materialien dafür gibt.

るためだけに使用するのではない。教授用マニュアルも含めた教材構成全体の中で，それぞれの教員が担当する部分がどのような意味を担っているのかを説明するものでもある。そして，このマニュアルの背景にあるのが教員態勢のありかたである。ＳＦＣではキャンパス開設以来，全クラスをドイツ語研究室の教員全員で担当するローテーション・システムを採用している[14]。共通の教材を扱い，複数の教員がいわばチームとなって授業を進める方法である。そのためには常にチーム内での綿密な情報交換を維持していくことが前提となる。授業の度に他の教員へ申し送り事項を連絡し，問題点を話し合いながら進めていく，この煩雑な作業を維持するには，これらの作業を一つのシステムとして機能させていく必要がある。[15] このシステムによって教員個人のクラスワークや運営の差，非効率的な授業などの弊害は回避される。このシステムを円滑に機能させていくには，教員間の連絡が不可欠となる。それぞれの教員が授業を終えて帰宅してからＥメール等で連絡を書くことも勿論行ってはいるが，この場合，往々にして仔細

14) 関口（1993:73）
15) 教員間の連携が欠けている場合の問題については鈴木（1999:133-134）に簡潔に記されている。

を忘れがちになり，記憶を辿って書くことの負担も大きい。そこで昨年導入したのが「連絡ノート」の利用である。教材の誤植や，実際に使用した時の欠点をすべての教員に毎時間後，報告してもらう。報告内容は教材に関するこうしたコメントにとどまらず，その使用方法や教室での学生の反応に至るまで多岐にわたる。この記録をもとに教材の再検討すべきところは検討し，改訂すべき部分は次の教材作成の参考資料とする。このプロセスを継続することによって，教材が学習者の実態とかみあわなくなる，という状況が避けられる。先に挙げた図２の示すところでも明らかなように，「教材開発」の場と「実践」の場が乖離することなく，絶えず循環することによって，常にその時々に合った教材，教授法を更新できるのである。

５．実践 ― SFCの事例から

本章では，ＳＦＣにおけるドイツ語の学習・教育環境およびインテンシブ・コースの一週間の授業の具体的な紹介をとおして，実践段階について考える。ＳＦＣのドイツ語教育については関口（1993: 49-75）にも紹介されているが，本稿ではその後の変化を含めて，図２の流れにそって新たに書き下ろした。

５．１．学習・教育環境

上述のとおり，SFCドイツ語研究室では，授業を個々の教員が独自に行うのではなく，教員，ＴＡ，ＳＡの緊密な連携によってドイツ語教育を進めていく態勢をとっている。ＳＦＣドイツ語研究室は2002年春学期現在，ドイツ人訪問講師１名を含む専任４名と非常勤講師10名の計14名の教員と３名のTA，12名のSAによって運営されている。教員は学期はじめの全体会合およびメーリングリストによる情報交換のほか，ドイツ語の授業のある週４日（月，火，水，金）はドイツ語共同研究室に専任が少なくとも1人は常駐し，授業の前後に意見・情報交換ができるようになっている。連絡ノートは複数の教員が同一教材を分担して授業を行うインテンシブ・コー

スおよびベーシック・コース[16] についてコースごとに設けている。

履修者名簿・成績の管理および毎週行う10分間テストの採点・講評などの教務補佐は大学院生などからなるＴＡが行う。そして，授業前の教材準備やコピー，ダビング，座席表作成およびホームページの管理，また新入学生の語種選択のためのドイツ語紹介やクリスマス会などのイベントは学部生のＳＡが中心に行っている。学期中，ＳＡは授業のある時間帯の間，シフト制でドイツ語共同研究室につめている。このようなＴＡ，ＳＡの活用は，単に効率化をはかるのみならず，教員が教材・教授法開発および教育活動により専念できるとともに，大学院生，学部生がそれぞれドイツ語教育および組織運営を実習するという教育上の意義も大きいだろう。

次に学級・教室環境についてみていこう。インテンシブ・コースのクラス数は近年では，選択必修の初級１，２が各４クラス，自由選択となる初級３が３クラスとなっている。１クラスあたりの人数は初級１、２では25名強と，少人数とはいえないが，後述するようにペア・ワークの導入などによって密度の濃い練習ができることをめざしている。初修者は初級１から受講するが，高校でのドイツ語学習者やドイツ語圏滞在経験者などのドイツ語力をより効果的に伸ばすため，希望者には資格試験によって初級２以上への編入を行っている。2002年秋学期からは，既習者の進度によりきめこまかく対応するため，初級１に，初歩を終えたところから出発する既習者コースを設置している。既習者コースはベーシック・コースの１学期修了時のレベルである第７課からはじまるように設計され，ベーシック・コースからインテンシブ・コースに移ることを希望する学生に対応できるようになっている。

教室は，学習者にとって受信が主となる全クラスの合同授業（後述）ではビデオと書画カメラが設置されている大画面つきの大教室を使用する。

16）ベーシック・コース（旧称：教養外国語）２クラスは日本人専任１名とドイツ人非常勤講師２名で受け持っている。時間数は90分授業が週２コマである。

机は教壇に向いた固定机である。これに対して，学習者からの発信を重視するクラス別授業では移動の自由なアームチェアのある30人規模の小教室を使用することによって，ペアワーク，グループワークやディスカッションなどのために臨機応変に机を配置できるようにしている。小教室にはOHP機器，ビデオのほか，教室の前後に黒板が設置されている。学生の視点を一個所に集中させて授業をより効果的に進めるため，クラス別授業ではOHPが積極的に活用され，配布教材（付録資料参照）はすべてカラー版OHPが用意されている。

教室外の学習支援環境としては，ドイツ語共同研究室が週４日開放され，質問への応対や補助教材の貸し出しを行っている。またメディアセンター内に設けられたMMＬＳ（Multimedia Multilingual Space）ではインテンシブ・コースのスケッチ・ビデオをはじめとするビデオ教材やCD－ROM教材の視聴，ドイツ語の新聞・雑誌の閲覧，ドイツ語のテレビ放送が受信できる。

５．２．一週間の授業の流れ

インテンシブ・コースのカリキュラムは，一学期ごとに12課で３学期間（それぞれ初級１，２，３）かけて，50分×２コマの授業４回（計８時間）で一週間に一課進むように設計されている。以下では，初級１の第５課を例に一週間の授業の流れを追い，教材と学習者と教員の三者の相互作用をみていこう。なお，授業時間はすべて午前中に設定されている。

授業サイクルの第１日目である火曜日の一時間目は全クラス合同の授業形態とすることによって効率化を図っている。まず前課の内容理解をチェックするための10分間テストを行う。また，この合同授業では前回実施した10分間テストの返却と講評も行う。これによって，学生は各課を終えるごとに，各自の理解度を確認することができる。ひきつづいて新しい課に入る。合同授業では，主として文法事項や表現の達成目標の確認とビデオによる今週のキーセンテンスの発音練習を行う。達成目標の確認は，一方

的に教えこんで覚えさせるのではなく，学生にも学ぶ内容の意味を認識させるうえで大切だと考えている。配布教材には，学期はじめに配布するシラバスのほかに各課ごとに「今週の配布教材とポイント」というプリントをつけている。5課の場合，文法としては所有冠詞，表現としては「物を評価する表現」があげられる。発音練習は，一週間を導くキーセンテンスとの最初の出会いである。ビデオのキーセンテンスをまずは通して聞き，それからビデオに録音された声のあとについて発音する。

試験やグループワークなどに関するさまざまな伝達事項もこの時間に扱う。ドイツ語圏の地誌に関するビデオをみせることもある。また，学期に数回，学習者が自らの学習の進度をチェックし目標を再確認するための学習ダイアリーもこの時間に行っている。

二時間目はクラス別に分かれての授業となる。文法規則などを自ら発見して理解してもらうための「問題発見コーナー」を踏まえて文法およびキーセンテンスがとりあげられる。ここでキーセンテンスを理解することが水曜日のスケッチ理解の前提となる。5課の「問題発見コーナー」ではこの課の文法事項である所有冠詞について，どの所有冠詞がどの人称代名詞に対応するかを学生自身に推測させる。そのうえで所有冠詞の語尾を，既習の冠詞の語尾を手がかりにしてあてはめさせて，所有冠詞の語尾のつけ方が不定冠詞と同じであることを発見してもらう。「問題発見コーナー」で学生が「発見」した所有冠詞は，「文法説明」(Grammatik 1) で語尾とともに改めて整理される。そして，表現については物事を評価する言い方が，キーセンテンスの例文をも加えて扱われる (Grammatik 2)。これらの文法の理解をふまえて「キーセンテンス」に解説が加えられる。教材は，以前は進度にあわせて毎時間授業ごとに少しずつ配布していたが，授業時間をより有効に使うため，現在ではこの時間に一課分をまとめて配っている。

水曜日はビデオ・スケッチを理解してその中から自らの発信のための「表現資源」を抽出して実際に使ってみることが課題である。ここではキーセンテンスおよび会話の行われている状況のあらゆる情報（視覚・聴覚・

背景知識）を総合的に活用してビデオを理解しようとする力の育成を重視している。したがって，初級１の段階から手加減せず自然な会話の速度で録画されている。これによって，最初からドイツ語母語話者の話し方の特徴に慣れることができる。授業では発音や聞きとりの際の留意点やプロソディーにも適宜，注意を喚起する。

スケッチの理解はまずスケッチに関連する問いに答えていくことによって進められる。「スケッチ練習」は会話の内容に関する質問に答える形式や穴埋めなど，課によって異なるが，５課では正誤を問う問題になっている(Sketch–Übung)。この場合，授業の進行は，まず「スケッチ練習」に目をとおして聞き取りのポイントを頭にいれた後，ビデオをみて，「スケッチ練習」の一つ一つの文について正誤を，理由とともに学生が述べあい，協力しておおまかな話の流れを確認していく。それから，学生の間で意見が分かれたところなどに特に留意しながらさらにビデオをみていき，より細かい内容を把握する。内容の理解はあくまでもビデオを中心に行うが，その後，OHPでスケッチのスクリプトを示し，文法事項や構文などを解説する。日本語訳（Übersetzung）は配布するが，授業では通常は直接とりあげない。スケッチを理解したら，次は「ペアワーク」(Partnerarbeit) である。毎回，スケッチをもとにした対話例の骨格が用意されているが，中身は学生の想像力・創造力に委ねられている。５課では持ち物や服を相互に評価しあうことになる。学生が自分でパートナーをみつけて練習し，教員は学生の間をまわり，質問に答える。最後は，何組かが自分たちの会話例を発表したり，代表して何人かに全員のまえで新たに別のパートナーと対話をしてもらったりしている。

金曜日は日本語母語教員が担当して，語彙を拡張するとともに，文法や表現に関する基礎練習を行う。５課の場合，服装の名前や色，評価の形容詞を増やし，表現の幅を広げる。そしてその語彙を使った表現練習を行う(Wörter und Wendungen 1,2)。質疑応答の練習 (Fragen und Antworten) ではOHPで提示された写真の人物の服装について語り合い，ついでクラス

内で互いの服装を評しあう。持ち物の評価についての練習（Ich habe...）では学生が持っているものや服についていわば自慢大会を行い，クラスメートがそれぞれの物について感想を述べる。色に関する練習（Farbe）では，特に色に焦点をあてて練習を行う。これらの練習ではもはや水曜日のペアワークのような決まった会話の枠組みはなく，それぞれの練習に示されている例文を参考にして学生が自由に会話を作っていく。教員は学生の表現の試みを促し，支援するのが主要な役目となる。

そしてドイツ語母語教員が担当する月曜日は，その課の総仕上げとしてこれまでに学んだことを総動員してドイツ語で発信し，実際にコミュニケーションをとる応用練習を行う。たとえば初級１の４課には学生が互いに相談していろいろな物を持ちより，Wohngemeinschaft（ルームシェアをするグループ）をつくる練習がある。学期の折り返し地点に近い５課では，総合練習として，１課から５課を総復習する内容になっている。まず学生生活や持ち物，趣味などについて質疑を行う（総合練習１ Fragen）。次に，音声のみでドイツ人学生の話を聞いて質問にそって大まかな内容をおさえる（総合練習２ Hörübung）。この教材はさらに読解練習としても扱う（総合練習３ Lesetext）。最後は，Lesetextを参考にして自分についてレポートを書く（総合練習４ Schreibübung）。この課ではレポートは課の最後に置かれている。このように，話し，聞き，読み，書くといういわゆる４技能を確かめて次の課に進む。

正規の授業は以上だが，授業外の自主学習活動を支援するために，毎週火曜日にＴＡによる学習相談の時間（チュートリアル）が設けられている。また学生が各自のラップトップやＭＭＬＳを利用して練習できるようなＣＤ－ＲＯＭ教材を配布している。さらに，初級２ではドイツ語を用いたグループワークの課題があり，学期末に発表会が行われる。2002年には自作自演のドイツ語劇などの大掛かりな作品も見られた。

5．3 評価

実践をもって学習・教育のプロセスを終わりとせず，図2で示したサイクルを進めるうえで鍵となるのが評価である。評価についても図2にあげた3要素である学習者，教員，教材それぞれの評価が必要となる。順に，学習評価，授業評価，教材評価ということになろう。ＳＦＣドイツ語研究室ではそれぞれ次のように行われている。学習評価は毎週の10分テストで筆記および聴解のチェックを行う他，学期ごとに筆記（聴解を含む）と発話試験の二部からなる中間・期末試験を行っている。成績は相対評価であるが，就職活動や留学などの必要に応じて，外部向けには授業内容および到達度を説明する能力証明書を発行している。学習者自身の自己評価を促すために2001年度秋学期に学習ダイアリーが導入されている。これは自分で自分の学習を反省し，管理するメタ認知的能力の養成を目的としたもので，３～４週間に一度Ａ４版プリント１枚に記入するという形で行う。学生は前回に記入したシートと今回記入する提出用シートの２枚を受け取り，前回との比較を通して，自己の学習プロセスを反省する。

授業評価はＳＦＣ全体の授業評価システムによって紙媒体のアンケート形式で各学期末に行われていたが，2002年春学期から電子化され，オンラインで記入することになっている。教員は学生の声に対してコメントを記入する。また新システムでは，学期途中でも同様に学生の授業評価を求めることができる。

教材評価は，教員によって上述の連絡ノートで行われる他，学生には不定期ながらアンケートを行っている。

そしてこれらの評価をふまえてふたたび理念・前提を再考していくことになる。

6．今後の課題

本稿では，教材制作を中心にすえて，ＳＦＣドイツ語研究室の場合を例

にドイツ語教育のあり方を示してみた。今後の課題は山積しており，道未だ半ばといった感が強い。教材そのものに関して述べれば，質の充実を目指すだけでなく，他大学・機関でも使用していただけるような汎用性を持たせる必要があろう。

しかし，それ以上に課題の多いのが学習者に関する部分である。日本語を母語とする話者のドイツ語による言語行動の記述，ニーズ分析といった学習者の実態把握を目的とした調査や，自動学習のできる環境やシステムの拡充，多言語環境設計の支援，学習ダイアリーで始めたメタ認知ストラテジーの開発など研究テーマは多い。

さらに，上級を含めたコースの設計も求められよう。また，今回は触れなかったが，遠隔授業も拡充していかなくてはならない。

これらすべてを統合して外国語教育学の構築に寄与し，新しい学問体系を作り上げられればと思う。

参考文献

Strevens, Peter (1977) New Orientations in the Teaching of English. Oxford University Press.

Stern, H. H. (1983) Fundamental Concepts of Language Teaching. Oxford University Press.

Edmondson, Willis / House, Juliane (1993) Einführung in die Sprachlehrforschung Francke Verlag.

Henrici, Gerd (1995) Konturen der Disziplin Deutsch als Fremdsprache. In: Norbert Dittmar / Martina Rost-Roth (Hrsg.) Deutsch als Zweit- und Fremdsprache. Peter Lang Verlag. S. 7-22.

Council of Europe (2001) Common European Framework of Reference for Languages : Learning, teaching, assessment. Cambridge University Press.

安西祐一郎（1985）『問題解決の心理学』中央公論社

関口一郎編著（1993）『慶應湘南藤沢キャンパス・外国語教育への挑戦 － 新しい外国語教育をめざして』三修社

関口一郎・斎藤貴臣（1993）「眼球運動に基づく語学教材の分析評価」『ドイツ語教育部会会報』44号 pp.20-29. 日本独文学会ドイツ語教育部会

井上輝夫（1995）「マルチ・メディア時代における外国語の必要性」『言語』７月号 pp.20-27. 大修館書店

ネウストプニー, J. V. （1995）『新しい日本語教育のために』大修館書店

平高史也（1997）「言語政策研究の視点から見た外国語教育」新プロ「日本語」研究班１＋言語政策研究会編『世界の言語問題３』pp.73-122

鈴木孝夫（1999）『日本人はなぜ英語ができないか』岩波書店

日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議（2000）『日本語教育のための教員養成について』

関口一郎（2000）『「学ぶ」から「使う」外国語へ － 慶應義塾藤沢キャンパスの実践』集英社

藁谷郁美・平高史也・関口一郎ほか（2001）「ドイツ語発音導入のためのCD－ROM練習ソフト開発・実践・評価」『慶應義塾大学語学視聴覚教育研究室紀要』第33号 pp.52-80

平高史也・藁谷郁美（2001）「海外研修前後の発話分析に関する予備的考察—ドイツ語運用能力の変化はどこに現れるか—」『ドイツ語教育』第６号 pp.21-34.日本独文学会ドイツ語教育部会

付録資料：初級１　Lektion ５　教材

LEKTION 5

今週の配布教材とポイント

DIENSTAG	MITTWOCH
□ 今週の配布教材とポイント □ 問題発見コーナー □ SCHLÜSSELSÄTZE □ GRAMMATIK 1,2	□ SKETCH-ÜBUNG □ SKETCH □ SKETCH-ÜBERSETZUNG □ PARTNERARBEIT
FREITAG	**MONTAG**
□ WÖRTER UND WENDUNGEN 1 □ WÖRTER UND WENDUNGEN 2 □ Fragen und Antworten □ Ich habe ... □ Farbe	□ 総合練習　１ Fragen □ 総合練習　２ Hörübung □ 総合練習　３ Lesetext □ 総合練習　４ Schreibübung

文法のポイント

所有冠詞

「誰々の～」という、英語の my や his にあたる所有冠詞を勉強します。

「問題発見」でも書きましたように、「所有代名詞」という文法用語を用いる参考書や教科書が今でもありますが、これは間違いです。

気をつけていただきたいのは発音です。ihr、Ihr、unser、euer など、語末が r で終わる所有冠詞です。単独では「イーア」「ウンザー」「オイアー」のように、r を母音のように「ア」「アー」と発音しますが、e やｅｎの語尾がつくと、子音としてのｒが復活して、「イーレ」「ウンゼレン」のようになります。

besser als …

形容詞の比較変化については先でまたまとめて勉強しますが、簡単な比較表現については、すこしずつなれておくことにしましょう。今週まず勉強するのは、英語の better than にあたる besser als です。使い方は英語と同じです。

ドイツ語の形容詞の比較変化は英語とほとんど同じで、形容詞の語尾に er をつけ、than のかわりに als を用いるだけです。gut ⇒ besser のような不規則な比較変化があるのも、英語の better を思い起こせば容易に理解できることです。

ただし、alt *(old)* ⇒ älter のように、幹母音が変音することもありますが、これについては出てくるたびにチェックすることにしましょう。

表現のポイント

物や人を評価する表現

すでに勉強した身の回りの品や服装を中心に、今週は「物を評価する表現」を中心に練習します。人間については、複数形とともに、次週もうすこし詳しく勉強します。

LEKTION 5　問題発見コーナー

今週は英語の my や his にあたる「誰々の～」という「所有冠詞」を勉強します。先生によっては「所有代名詞」と言うひともいますが、代名詞というのは er、sie（人称代名詞）のように物事や人のかわりに単独で用いられるもので、名詞の前におかれて定冠詞や不定冠詞と同じような変化をするものはあくまでも「冠詞」です。
それぞれの人称代名詞に該当する「所有冠詞」を自分たちで発見してみよう。
一種の暗号解読と競馬の読みをいっしょにしたような問題発見だ。

		所有冠詞
1人称	ich	
	wir	
2人称	Sie	
	du	
	ihr	
3人称	er	
	es	
	sie	
	sie	

ihr
euer
mein
sein
unser
Ihr
dein

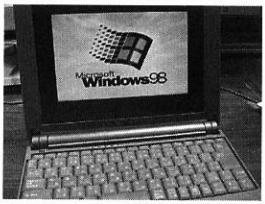
それでは次の問題発見　これまでに習った「冠詞」の語尾変化の規則をもとに、どんな語尾がつくかを下線部に記入してみよう。語尾がつかないものもたくさんあるが、その場合には×を記入すること。

Das ist mein_ Tasche. Und das ist sein_ Tasche.
Wir suchen unser_ Auto. Ah, da ist unser_ Auto.
Ich suche mein_ CD-Spieler.
Er sucht sein_ Fahrrad. Wo ist sein_ Fahrrad?
Haben Sie Ihr_ Stift? Wo ist Ihr_ Stift?
Das ist ihr_ Kamera.
Wo ist unser_ CD-Spieler?
Wir suchen unser_ CD-Spieler.

最後の問題発見
所有冠詞の格変化は［　　］と同じだ！

LEKTION 5 SCHLÜSSELSÄTZE

物を評価する表現



Ist der Laptop neu?

Wie ist er?

Er ist sehr klein.

Er ist zwar teuer, aber er ist leicht.

Ich finde ihn sehr praktisch.

Mein Laptop ist unpraktisch, denn er ist zu schwer.

Ist das Keyboard nicht zu klein?

服装をめぐる表現

Warum ist die Mode in Japan so dunkel?

Seine Jacke ist schwarz.

Deine Socken sind rot.

Die Hose ist viel zu kurz.

neu 新しい	klein 小さい	zwar ..., aber ... たしかに...だが...だ		leicht 軽い	
zu ... ...すぎる	schwer 重い	warum なぜ	e Mode ファッション		
dunkel 暗い	schwarz 黒い	Socken(pl) ソックス（普通は複数で使います）			
rot 赤い	e Hose ズボン	viel zu ... あまりに...な		kurz 短い	

LEKTION 5 Grammatik 1

所有冠詞の mein

英語の*my* にあたる

	男性	中性	女性
1格	**mein**	**mein**	**meine**
4格	**meinen**		

Mein Laptop ist unpraktisch.
Das ist **mein** Fahrrad.
Wo ist **meine** Tasche?
Ich suche **meinen** CD-Spieler.

所有冠詞（1格）

			男性・中性	女性
1人称	私の～	ich	**mein**	**meine**
	私たちの～	wir	**unser**	**unsere**
2人称	あなたの～	Sie	**Ihr**	**Ihre**
	君の～	du	**dein**	**deine**
	君たちの～	ihr	**euer**	**eu(e)re**
3人称	彼の～	er	**sein**	**seine**
	それの～	es	**sein**	**seine**
	彼女の～	sie	**ihr**	**ihre**
	彼らの～	sie	**ihr**	**ihre**

● 男性の場合には4格で –en の語尾をつける。

LEKTION 5 Grammatik 2

物事や人を評価する表現

Wie ist der (das, die) ～?	～はどのようですか。
- Er (Es, Sie) ist …	それは……です。

Wie ist der Laptop? – **Er** ist gut.
Wie ist das Fahrrad? – **Es** ist sehr teuer.
Wie ist die Tasche? – **Sie** ist nicht so gut.
Wie ist das Keyboard? – **Es** ist zu klein.

Wie finden Sie ～^{4}?	あなたは～^{4}をどう思いますか。
- Ich finde ～^{4} …	私は～^{4}を……だと思います。

Wie finden Sie ***meinen Stift***?
- **Ich finde** ***ihn*** sehr schön.

Wie findest du ***sein Hemd***?
- **Ich finde** ***es*** schick.

Wie findet dein Vater ***deine Kleidung***?
- **Er findet** ***sie*** sehr hässlich.

３人称については「彼の」「彼女の」といった訳語にこだわらないように。

besser als ～ 英語の *better than ～*

Ich finde Ihren Laptop **besser als** meinen Laptop.
比較級についてはまたあらためて勉強します。

LEKTION 5 SKETCH-ÜBUNG

Richtig oder falsch?

- ☐ **Herr Wiesmann hat einen Computer.**
- ☐ **Sein Computer ist ganz neu.**
- ☐ **Herr Wiesmann findet seinen Computer unpraktisch.**
- ☐ **Goro hat auch einen Laptop.**
- ☐ **Sein Laptop ist sehr leicht.**
- ☐ **Goro findet seinen Laptop nicht praktisch.**
- ☐ **Herr Wiesmann findet sein Keyboard zu klein.**

- ☐ **Michaela findet die Mode in Japan langweilig.**
- ☐ **Goro findet die Mode in Japan nicht elegant.**
- ☐ **Sein Hemd ist rot.**
- ☐ **Seine Socken sind blau.**
- ☐ **Michaela findet seine Hose zu kurz.**
- ☐ **Goro hat keine Waschmaschine.**

LEKTION 5 SKETCH

SKETCH 1

Mein Laptop ist unpraktisch

Goro	Oh, ist der Laptop neu?
Herr Wiesmann	Ja, er ist ganz neu.
Goro	Wie ist er? Ist er gut?
Herr Wiesmann	Er ist zwar ein bisschen teuer, aber er ist leicht. Und er ist sehr klein. Ich finde ihn sehr praktisch.
Goro	Mein Laptop ist unpraktisch, denn er ist zu schwer. Ich finde Ihren Laptop besser als meinen. Aber sagen Sie, ist das Keyboard nicht zu klein?
Herr Wiesmann	Naja, es ist zwar ein bisschen klein, aber ich finde es nicht zu klein.

SKETCH 2

Ich finde das sehr elegant

Michaela	Sag mal, Goro. Warum ist die Mode in Japan so dunkel?
Goro	Dunkel? Was meinst du?
Michaela	Schau mal, hier. Seine Jacke ist schwarz, seine Hose ist grau. Und die Schuhe sind natürlich auch schwarz. Ich finde das sehr langweilig.
Goro	Findest du? Also ich finde das sehr elegant.
Michaela	Aber deine Kleidung ist doch so bunt. Dein Hemd ist blau, deine Hose ist weiß und deine Socken sind rot. Und die Hose ist viel zu kurz.
Goro	Naja, meine Sachen sind schmutzig, denn meine Waschmaschine ist kaputt. Ich habe nur noch das.

LEKTION 5 ÜBERSETZUNG

スケッチ1

私のラップトップは使いにくい

五郎： あっ、このラップトップ新しいんですか。
ヴィースマン：ええ、とても新しいですよ。
五郎： それ、どうですか。いいですか。
ヴィースマン：確かにちょっと高いけどね、でも軽いんですよ。しかもすごく小さいでしょ。私はとても便利だと思いますよ。
五郎： ぼくのラップトップは使いにくいんですよ、重すぎちゃって。あなたのラップトップのほうがぼくのよりいいですね。でも、ねえ、このキーボードは小さすぎませんか？
ヴィースマン：まあね、確かにちょっと小さいけど、でも小さすぎるとは思わないですよ。

スケッチ2

それすごくエレガントだと思うよ

ミヒャエラ：ねえ、五郎、どうして日本のファッションって地味なのかしらね。
五郎： 地味って？どういうこと？
ミヒャエラ：ちょっとこれ見てよ。この人のジャケットは黒、ズボンはグレー。靴だって当然黒。これってすごく退屈だと思うわ。
五郎： そう思う？ぼくはこれすごくエレガントだと思うけどなあ。
ミヒャエラ：だけどあなたの服はとても派手じゃないの。シャツはブルーでズボンは白、ソックスは赤でしょ。しかもそのズボン、あんまりにも短すぎるわ！
五郎： そりゃまあねえ、ぼくの汚れてるんだよ、洗濯機が壊れちゃってて さ。これしか着るものがないんだ。

注釈

ein bisschen「少し」「ちょっと」　leicht ⇔ schwer　praktisch ⇔ unpraktisch
Ich finde Ihren Laptop besser als meinen. この meinen の後に男性名詞 Laptop が省略されています。　Sagen Sie, …　直訳すれば「おっしゃってください」ですが、「ねえ」程度の軽い問いかけの言葉です。　Sag mal: 上の Sagen Sie,...と使い方はおなじですが、du で話す場合の言い方です。Schau mal も Schauen Sie mal の du の場合の言い方です。schauen ＝sehen
meine Socken　Socken は次の課で勉強する複数形です(単数形は e Socke)。

形容詞についてのお話

第5課に入ると、特にネーティブの先生の授業で皆さんはいろいろな疑問を持たれるようになるでしょう。たとえば、さきほどまで Ich finde Ihre Bluse sehr elegant.と言っていた先生が、今度は Sie tragen eine elegante Bluse. というような場合です。実は、ドイツ語の形容詞は名詞の前におかれると、-e や -en などの語尾をとるのですが、これについては今勉強すると混乱するので、来学期の始めにやる予定です。従って、ネーティブの先生の口からこんな語尾が聞こえたら、気楽に聞き流してください。

皆さん自身が作文などでどうしても使いたくなったら、-e でも -en でも、その日の気分ですきなものをつけておきましょう。Ich habe eine elegante Bluse. / Ich habe eine eleganten Bluse. この場合の正解は前者ですが、発音したらたいした違いはありませんし、これで人生が変わるわけでもありません。ちなみに、留学時代のぼくの南欧の友達には、ドイツ語にこんな規則があることさえ知らない連中が多く、Ich habe eine elegant Bluse.と言って、平気な顔をしていました。

LEKTION 5　Partnerarbeit

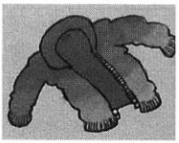
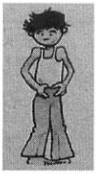
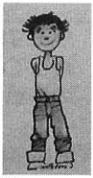
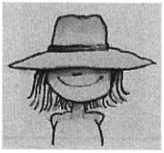
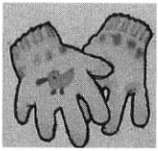
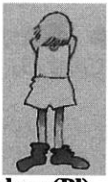
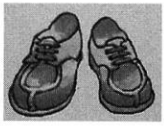
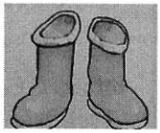
次の流れの対話例を作成してみよう。

相手に「～を持っているか」と質問してみよう。	たとえ持っていなくても、虚勢をはって、断固「持っている」と答えよう。
その品がどんなものか質問。	答える。
今度は自分の着ているものや、持っているものを自慢し、相手の感想を聞いてみよう。 **Wie findest du meinen (mein, meine) ...?**	答える。
ほめてくれたら、お礼を。 けなしたら。 **Tschüs!**	●　今度は立場を逆にしてやってみよう。

LEKTION 5

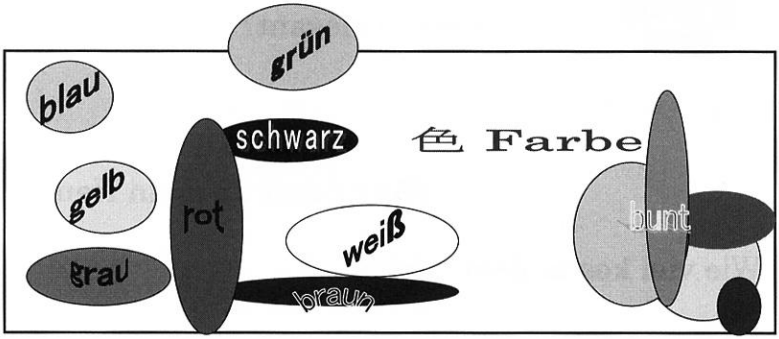
WÖRTER UND WENDUNGEN 1

e Kleidung 服装

s T-Shirt	 e Jacke	r Pullover	 e Hose
r Mantel	s Hemd	e Krawatte	r Anzug
s Kleid	r Rock	e Bluse	 e Jeans
 r Hut	e Mütze	r Gürtel	s Sweatshirt
 Handschuhe (Pl)	 Socken (Pl)	 Schuhe (Pl)	 Stiefel (Pl)

LEKTION 5　WÖRTER UND WENDUNGEN 2

gut	善し悪し	schlecht
teuer	値段	billig
neu / modern	新旧	alt
bequem	快適さ	unbequem
sauber	清潔さ	schmutzig
praktisch	便利さ	unpraktisch
interessant	おもしろさ	langweilig
schön	美しさ	hässlich
hübsch		
elegant		
schick		
modisch	流行	altmodisch



groß	大小	klein
lang	長短	kurz
schwer	重量	leicht
hell	明暗	dunkel
weit	（服の）ブカピチ	eng

LEKTION 5 Fragen und Antworten

Wörter und Wendungen 2 の様々な形容詞を使って質問に答えてみよう。

Wie finden Sie ihr Kleid ?
Finden Sie ihr Kleid billig?
Wie viel kostet ihr Kleid?
- Ich glaube, es kostet ..... Yen.
Und die Schuhe? Wie finden Sie sie?

Wie finden Sie seinen Anzug?
Finden Sie seine Krawatte schick?
Und das Hemd?
Finden Sie es elegant?

さあ、今度はクラスで自由に会話してみよう。

Wie findest du mein Hemd?

Wie viel kostet dein / deine ...?

Ist dein / deine ... teuer / billig?

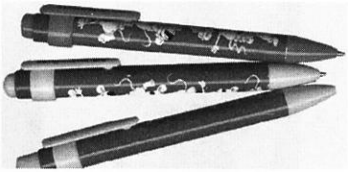
Und wie findest du ...?

LEKTION 5　Ich habe ...

第３課の **Wörter und Wendungen** を使って
自分の持ち物や服装を自慢してみよう。

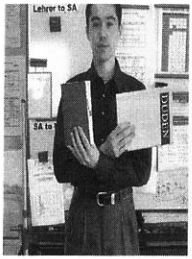
ほかの人はそれにたいして感想を述べてみよう。

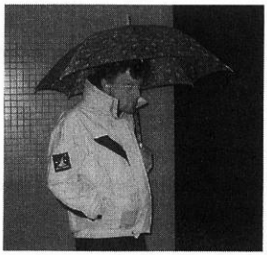
●Was hast du hier?
○Ich habe hier einen Kugelschreiber.
●Wie ist er?
○Er ist sehr gut!
●Ist er teuer?
○Nein, er ist gar nicht teuer.
Er ist sehr billig!
●Wie viel kostet er?
○Er kostet nur 80 Yen.
●Wie findest du ihn?
○Ich finde ihn fantastisch!



LEKTION 5 Farbe

五郎、ミヒャエラ、ヴィースマンさんの持ってるものは何？それは何色？写真をみて隣の人と話し合ってみよう。





Goro hat ein Wörterbuch und ein Heft.
Sein Heft ist grün. Und das Wörterbuch?

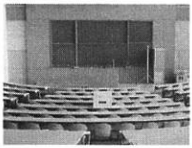
Michaela hat eine Mappe. Ist die Mappe schwarz?
Ist ihre Tasche grün?
Ist ihre Jeans bunt?
Wie findest du ihre Jeans?

Herr Wiesmann hat einen Schirm.
Ist er grau?
Findest du seinen Schirm schön?
Ist seine Jacke schwarz?
Wie findest du sie?

e Farbe 色

LEKTION 5　総合練習１　Fragen

次の質問にドイツ語で答えてみましょう。



Wie finden Sie die Keio-Universität?
Wie finden Sie die Seminare hier?
Finden Sie sie interessant oder langweilig?

Wie finden Sie Ihre Wohnung?
Ist Ihre Wohnung neu oder alt?
Ist Ihre Wohnung schön oder hässlich?

Was haben Sie in Ihrer Wohnung?
Sie haben 100.000 Yen. Was kaufen Sie dann?
Was machen Sie gern in Ihrer Freizeit?
Wie oft machen Sie das?

Haben Sie Freunde?
Wie ist Ihr Freund / Ihre Freundin?
Wie finden Sie ihn / sie?
Hat er / sie Hobbys?
Was isst er / sie gern?

Kochen Sie gern?
Was essen Sie am liebsten? Was trinken Sie am liebsten?
Was essen Sie nicht gern? Und warum?

KOMMENTARE

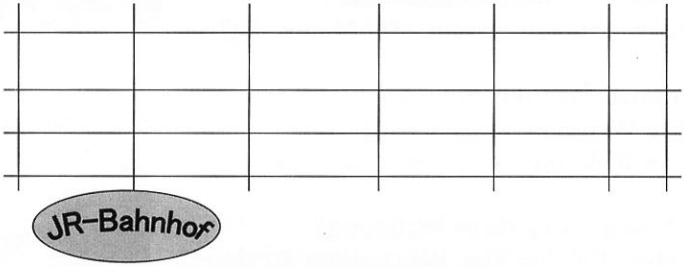
Seminare　ゼミ（Pl）　interessant　おもしろい　　langweilig　たいくつな
e Wohnung　住宅
in Ihrer Freizeit　あなたがひまなときに　→　自分の場合は　in meiner Freizeit
wie oft ～?　何回くらい　　kochen　料理する　　am liebsten もっとも好んで
Freunde　友人 (Pl) ← r Freund　[Freundinnen (Pl) ←e Freundin]

LEKTION 5

総合練習２　Hörübung

テープを聞き、**Heinz** 君と友達についての情報をメモしてください。「文」ではなく、メモをてがかりにそれを口頭で再現するのがポイントです。

Heinz 君のマンションへの道のり



Heinz 君が自宅に持ってるものは？

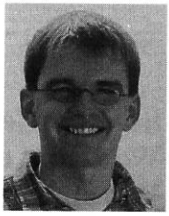
Schreibtisch　**Fernseher**　**Staubsauger**　**Stuhl**　**Computer**

Motorrad　**Fahrrad**　**Videokamera**　**Bett**　**Regal**

Kühlschrank　**Auto**　**Lampe**　**Videokamera**　**CD-Spieler**

Taro 君について

LEKTION 5 総合練習３ Lesetext



Guten Tag! Ich heiße Heinz Schmidt. Ich komme aus Bremen in Norddeutschland. Ich studiere Politologie und Wirtschaft an der Keio-Universität. Ich finde die Keio-Uni sehr gut. Und ich finde das Politologieseminar besonders interessant.

Ich wohne jetzt in Machida. Und so finden Sie meine Wohnung: In Machida ist ein JR-Bahnhof. Dort gehen Sie rechts und dann die Tokyu-Straße immer geradeaus. Sie gehen die dritte Straße links, dann die zweite Straße rechts – da sehen Sie ein Postamt und einen Supermarkt. Das Postamt ist links und der Supermarkt ist rechts. Meine Wohnung ist gleich daneben. Das Haus heißt „Nikoniko-Mansion“. Es ist ganz neu und modern. Ich finde es sehr schön und sauber.

Meine Wohnung hat die Nummer 304. Sie ist nicht so groß. Ich habe einen Tisch, einen Stuhl, ein Bett und einen Schrank. Aber ich habe noch keinen Kühlschrank und keine Waschmaschine. Ich höre gern Rock, aber ich habe jetzt keinen CD-Spieler. Ich kaufe bald einen CD-Spieler. Ich spiele zweimal pro Woche Tennis. Oft gehe ich schwimmen und Karaoke singen.

Taro ist mein Freund. Er studiert Environmental Information und lernt Deutsch. Er spricht sehr gut Deutsch. Er kommt aus Kyushu und wohnt jetzt in Shonandai. Er hat ein Motorrad. Das Motorrad ist groß, aber es ist oft kaputt. Taro ist sehr nett, aber ich finde ihn nicht sehr sauber. Seine Kleidung ist oft ein bisschen schmutzig.

Ich koche sehr gut und esse gern japanisch. Dreimal pro Woche gehe ich essen. Ich esse Nudeln oder Fisch. Mein Freund Taro isst gern Gyudon. Aber ich finde Gyudon zu fett. Und ich esse nicht gern Natto. Ich esse lieber Tempura oder Sushi, aber das ist sehr teuer.

注）**zweimal pro Woche**：「週に２度」

LEKTION 5 総合練習 4 Schreibübung

テキストについて答えてみましょう。

Studiert Heinz Soziologie?
Wo wohnt er?
Wie oft spielt er Tennis?
Hat Taro ein Fahrrad?
Isst Heinz gern Gyudon?

さあ、今度はあなた自身について書いてみましょう。

Guten Tag! Ich heiße...
Ich komme aus ...
Ich studiere ...

Ich wohne jetzt in ...
Meine Wohnung ist ...
Ich habe ...
Aber ich habe noch keinen (kein, keine) ...

Ich höre gern ...
Ich kaufe bald ...
Ich esse gern ...
Aber ich esse nicht gern ...

[　　] ist mein Freund / meine Freundin.
Er / Sie studiert ...
Er / Sie kommt aus ...
und wohnt jetzt in ...

Ich finde ihn / sie sehr ...